

第3学年B組 学級活動(1) 指導案

授業者 福田 佳子
研究協力者 森 和彦

1 活動題 3Bがもっとなかよくなる方法を考えよう～3Bなかよしドッジボール大会をしよう～

2 子どもと活動題

(1) 子どもについて

3年生になり、クラス替えによって子どもたちは新しい出会いを果たした。子どもたちは、これまでに、新学級でも前学級のよさを取り入れながらよりよい学級集団を築いていくために、学級の組織づくりや楽しく生活するためのきまりなどについて話し合ってきた。同時に学級会の意義や進め方、司会グループの役割についても全員で確認し、共通理解を図る場を話し合いの中に設けることで、よりよい話し合い活動の進め方について学び、経験を積んでいるところである。

しかし、話し合い活動については「何かを決めるため」と考えている子どもが多く、「思いを学級で実現するため」の話し合いまでには至っていない。また、司会グループの話し合いの進め方についても未熟な点が多い。出された意見を分かりやすく分類・整理することや、論点を明確にして進行することがまだ十分にできないため、教師が介入し、支援する場面が多い。

(2) 活動題について

本活動では、よりよい学級生活につながることを議題化し、理由を明確にして考えを伝えたり、友達の考えも大切にしたりしながら話し合い、よりよく合意形成を図るという資質・能力を高めることを目指す。

3年生に進級し、「やさしさあふれ 笑顔満開 一致団結はばたけB組」という学級目標を話し合いで決めた。その学級目標の到達度について、レーダーチャートを実施し、4月の段階での学級の実態を数値化した。すると、到達度は半分程度であった。到達度が低い理由として子どもたちから、「まだよく知らない友達がいる。」「休み時間にサッカーで遊んでいると、けんかやもめ事が起こる。」「一人一人がばらばらで3Bが一つのまとまりになっていない。」という声が挙がった。レーダーチャートの結果から、子どもたちの中に「友達ともっと仲良くなりたい。」「学級をよりよくしたい。」という思いが高まった。そこで、友達ともっと仲良くなることを目指して「3Bなかよし大作戦」に取り組むことにした。作戦の内容については、子どもたちと話し合い、パートⅠからパートⅢの3つの内容に取り組むことにした。本活動では、「3Bなかよし大作戦パートⅡ」として「3Bなかよしドッジボール大会をしよう」に取り組む。この会を成功させるために、どのような会にするのか、みんなが楽しめる会にするためにはどんな工夫が必要になるかを自分たちで話し合う。友達と協力して活動することを通して、自分たちで会を創り上げた、成功させることができた達成感を味わうことができるようにしていきたい。そしてこの会での経験を「3Bなかよし大作戦パートⅢ」に生かし、これからの学校生活を更によりよいものしていく子どもの姿を期待したい。

(3) 指導について

先述の資質・能力を育むために、自分だけでなく友達の視点も取り入れながら考えるという「見方・考え方」を働かせた話し合い活動を大切にす。互いの意見のよさを取り入れたり組み合わせたりしながら、みんなが納得できる話し合いになるように次のような支援をしていく。

本時の「みんながもっと楽しめる」ドッジボール大会にする話し合いにおいては、論点が明確な話し合いになるように、前時の話し合いで決定した内容を「お試し」の活動として事前に行う。「お試し」の活動を位置付けることで、個々が課題を把握し、みんなで解決していこうとする姿につなげていきたい。また、「みんながもっと仲良くなる」「みんなが楽しい」とは具体的にどんな姿なのかを事前に話し合い、共通理解を図る場も設ける。さらに、話し合いを焦点化・活性化することができるように、話し合い活動の導入において、「みんながもっと楽しめる工夫」についての原案のプレゼンテーションを取り入れる。提案者には、従来の方法との違いが参会者に明確に伝えるため、プレゼンテーションを工夫するよう助言する。また、原案については敢えて話し合いの余地を残しておくことで、原案をよりよい考えに昇華させていく話し合いを目指したい。

3 活動の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 話し合いによる集団決定の仕方が分かり、「みんながもっと楽しめる」ドッジボール大会にするための方法を理解する。
- (2) 活動題に即した話題に焦点化し、理由を明確にして発言したり、互いの考えを大切にしながら話し合ったりして、「みんながもっと楽しめる」ドッジボール大会にするためによりよい方法を考えることができる。
〈1-20・21・23・29・34〉
- (3) 「みんながもっと楽しめる」ドッジボール大会の工夫を考えていくことに興味をもち、進んで話し合いや集会活動に参加したり、友達のよさを発見したりするとともに、決定した計画に沿って協力して取り組もうとする。

4 活動の構想 (総時数 3 時間)

なかよし大作戦パート I 3 B がもっとなかよくなる方法を考えよう
 ～休み時間のサッカーのルールを決めよう～

◎本単元で育む資質・能力
 よりよい学級生活につながることを議題化し、理由を明確にして考えを伝えたり、友達の考えも大切にしたりしながら話し合い、よりよく合意形成を図る。(イー21)

児童の活動	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
<ul style="list-style-type: none"> 「なかよし大作戦パート I」を振り返る。 議題を知る。 議題に対する考えを学級会カードに記入する。 司会グループ、提案者と共に打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なかよし大作戦パート II」の「3 B なかよしドッジボール大会をしよう」への期待と意欲を高めることができるように、パート I の「休み時間のサッカーのルールを決めよう」の活動について振り返る場を設ける。 自分の意見をもった上で話し合いに参加することができるよう、事前に学級会カードに議題に対する考えを書く時間を設ける。 司会グループが見通しをもって進行できるように、学級会カードに書かれている考えを整理し話し合いの方向性について話し合ったり、板書の準備の支援をしたりする。 決まった内容についての有効性を確かめるために、「お試し」の活動を行う。また、有効性を確かめる視点として、本活動の目的や提案理由について確認する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で話し合うべき議題が分かり、これからの活動について見通しをもっている。 議題について自分の考えをもっている。
<p>学級活動 (1 時間) ○「3 B なかよしドッジボール大会をしよう」の内容を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の焦点化を図るために、話し合い活動の導入にアイデアのプレゼンテーションを取り入れる。 論点が焦点化された話し合いになるように、「お試し」の活動をして感じたことと話し合いの視点とを照らし合わせて述べている発言を価値付ける。 お互いの長所を生かした役割分担ができるよう、自分で役割を選んだり、友達を推薦したりする場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 共感的な態度で友達の意見を聞くとともに、話し合いの視点に沿って自分の立場や理由を明確にして意見を述べている。 (イー20・21・23・29・34)
<ul style="list-style-type: none"> 決まった内容について「お試し」の活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことをもとに、友達と仲良く協力して活動している子どもを称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お試し」の活動をして感じたことをもとに、自分の考えをもっている。
<ul style="list-style-type: none"> 議題を選定する。 議題を知る。 考えを学級会カードに記入する。 司会グループ、提案者と共に打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことをもとに、友達と仲良く協力して活動している子どもを称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お試し」の活動をして感じたことをもとに、自分の考えをもっている。
<p>学級活動 (1 時間)【本時】 ○「みんながもっと楽しめるドッジボール大会」の工夫について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことをもとに、友達と仲良く協力して活動している子どもを称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案者が原案に込めた思いを受け止めた上で自分の考えをもち、自分の立場や理由を明確にして意見を述べている。 (イー20・21・23・29・34)
<ul style="list-style-type: none"> 活動の役割分担を決める。 役割分担に従って、協力して準備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を計画し、実践した自分たちのよさや「なかよし大作戦パート II」の成果や課題を実感できるように、視点を明確にした振り返りカードを準備し、よさを紹介し合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担をもとに、協力し合って活動の準備を進めている。
<p>学級活動 (1 時間) ○「3 B なかよしドッジボール大会をしよう」を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動を計画し、実践した自分たちのよさや「なかよし大作戦パート II」の成果や課題を実感できるように、視点を明確にした振り返りカードを準備し、よさを紹介し合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割に責任をもち、協力し合って活動している。
<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を計画し、実践した自分たちのよさや「なかよし大作戦パート II」の成果や課題を実感できるように、視点を明確にした振り返りカードを準備し、よさを紹介し合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで協力し仲良く取り組んだことで、よりよい活動ができたことに気付いている。

◎本単元の活動で働かせる主な「見方・考え方」
 自分だけでなく友達の見点も取り入れながら考える。

なかよし大作戦パート III 3 B がもっとなかよくなる方法を考えよう
 ～3 B がもっと楽しくなる係活動について考えよう～

5 本時の実際 本時 (2 / 3)

(1) ねらい

「みんながもっと楽しめる」ドッジボール大会にするために、「お試し」の活動をもとに実施方法の工夫について考え、話し合うことができる。
(イ-21・23・29)

(2) 展開

○省察を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
3分	<p>① 議題や話合いの視点、話合いの柱について確かめ、見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>議題： みんながもっと楽しめる「3Bなかよしドッジボール大会」のやり方を決めよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・話合い活動の見通しをもつことができるように、決まっていることや話合いの視点などについて確かめる場を設ける。
5分	<p>② 「なかよしドッジボール大会」のやり方のアイデアを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの視点に沿った意見をもった上で話合いに参加することができるように、事前に学級会カードに意見を記入する時間を設ける。 ・自分が頑張りたい話合いの力を意識しながら話し合うことができるように、自分のめあてを確かめる場を設ける。
30分	<p>③ みんながもっと楽しめるドッジボール大会にするための工夫について話し合って決める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>○話合いの柱 『「3Bなかよしドッジボール」の実施方法の工夫』(予想される子どもの考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たると痛いからボールを捕るのが怖いという人もいます。柔らかいボールに変えたら、みんなが楽しめると思います。 ・誰かに当たったボールを他の誰かが空中でキャッチしたらセーフになるから、キャッチしてくれた人に「お助け賞」をあげたらどうだろうか。そうするとチームの協力度も上がると思います。 ・「お試し」のときは、ボールを投げられなかった人がいました。ボールを2個にしたら投げられる人が増えると思います。 ・ボールを2個にすると危ない感じがします。柔らかいボールだったら2個にしてもいいと思います。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「お試し」の活動での問題点を明確にして話し合うことができるように、「お試し」の活動の様子動画を視聴する時間を設ける。 ・視点や論点を明確にして話し合うことができるように、「お試し」の活動での問題点を解決するアイデアをプレゼンテーションとして紹介する時間を設ける。 ・提案者のアイデアに対する自分の考えを十分に述べるように、小グループでの話合いの場を設ける。 ○友達の見解とのつながりを意識して発言ができるように「話し方名人の技」やよりよい合意形成の図り方(「自分もよくてみんなもよい話合いの技」)を掲示し、活用できるようにする。 ・話合いの視点や話合いの柱から大きくずれ、司会グループが軌道修正できない場合は、めあてや柱に立ち返るよう司会グループと参加者に助言する。 ・真意が正しく伝わっていない意見については補足説明し、子ども同士が共通理解を図ることができるようにする。 ・自分と同じ意見だけでなく、自分と異なる意見にも耳を傾け、話合いの視点をもとに考えたり、よいところを見付け歩み寄ろうとしたり、関連しているところを見付けたりしている発言を取り上げ、価値付けていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>話合いの視点に沿って、立場を明確にして意見を述べたり、出された意見を取り入れた新たな意見を発言したりしている。 (イ-21・23・29) (発言・学級会カード)</p> </div>
7分	<p>④ 話合いをふり返り、今後の活動について見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の話合いの仕方や話合いにおける友達の見方についてふり返ることができるように、自己評価や他者評価を交流する活動を設定する。 ・話し合ったことを生かしてこれからの活動に取り組もうとする意欲と自己有用感をもつことができるように、話合いの中で出た互いの考えを生かす発言を取り上げ、価値付ける。